

2023年度 地域密着型金融の取組み状況

中小企業の経営支援に関する取組方針・・・・・・・・・・ 1

中小企業の経営支援に関する体制整備の状況・・・・・・ 1

中小企業の経営支援に関する取組状況・・・・・・・・・・ 2

① 創業・新規事業創出支援・・・・・・・・・・ 2

② 成長段階における支援・・・・・・・・・・ 2

③ 経営改善の支援・・・・・・・・・・ 5

④ 事業再生・業種転換等の支援・・・・・・・・・・ 5

⑤ 事業承継・M&Aが必要な企業への支援・・・・・・・・・・ 6

⑥ メイン取引先への支援・・・・・・・・・・ 6

地域の活性化に関する取組状況・・・・・・・・・・ 7



京都中央信用金庫

中小企業の経営の改善及び 地域の活性化のための取組みの状況

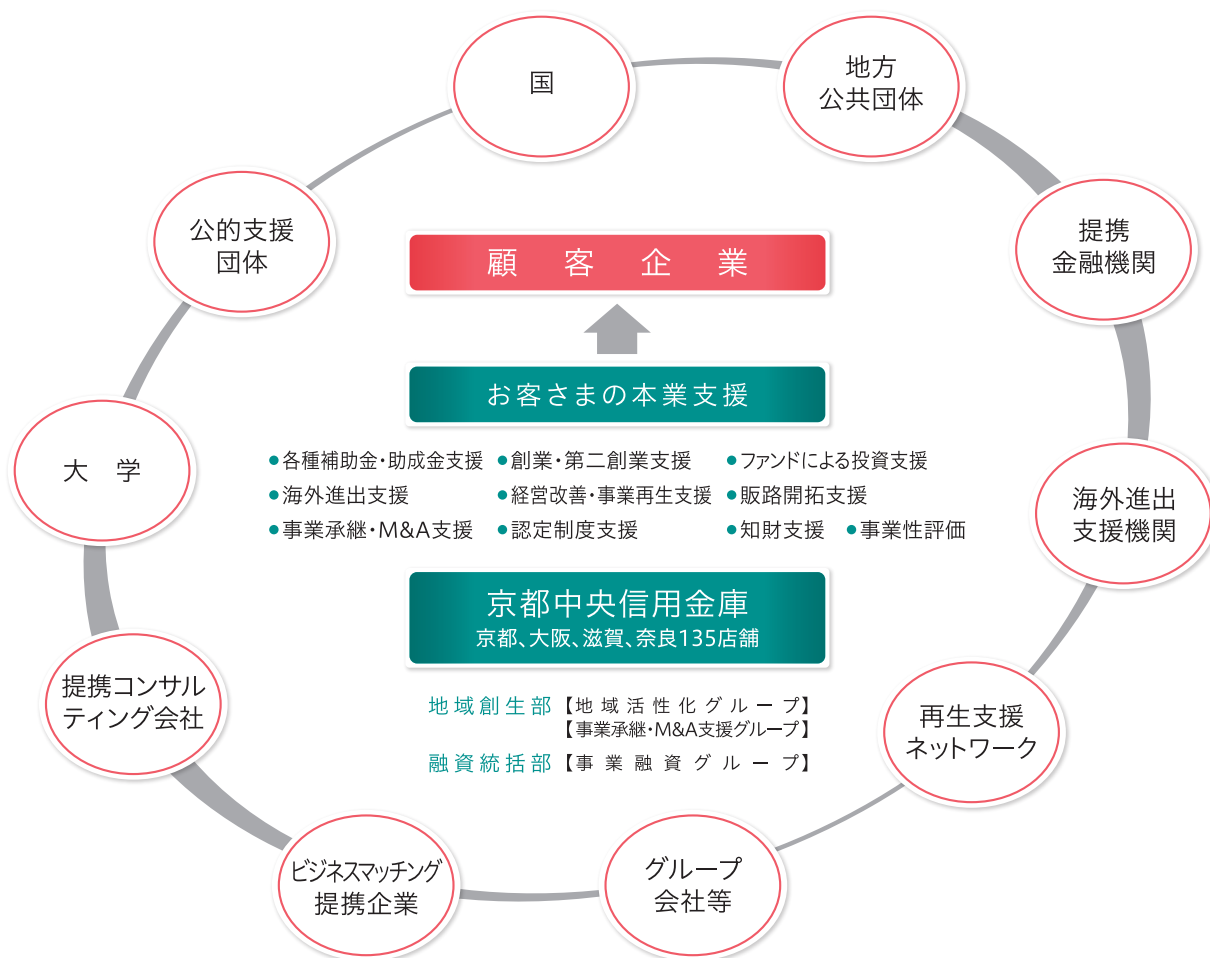
中小企業の経営支援に関する取組方針

当金庫は、中小企業等経営強化法の認定支援機関として、中小企業・小規模事業者のみなさまがそのライフステージに応じて抱えておられるさまざまな経営課題に、きめ細やかに対応できる態勢を整備していく方針です。本部および営業店が一体となり、中小企業・小規模事業者のみなさまに対する支援態勢の構築と支援内容の充実を図り、顧客のみなさまの経営力強化に資する取組みに努めてまいります。

創業あるいは新事業の展開、また事業が成長段階にある場合には、産学公と連携した各種事業支援メニューを活用し、成長をバックアップする取組みに努めてまいります。また、経営改善が必要な場合には「京都再生ネットワーク会議」を活用し、外部専門家（コンサルタントや税理士など）、外部機関（中小企業活性化協議会や地域経済活性化支援機構など）、他金融機関との連携を図りつつ、実効性のある経営改善アドバイスや経営改善計画の策定支援に努め、経営者のみなさまとともに事業再生ならびに経営課題の解決に取り組んでまいります。

中小企業の経営支援に関する体制整備の状況（体制組織図）

京都中央信用金庫の 中小企業支援ネットワーク



中小企業の経営支援に関する取組状況

① 創業・新規事業創出支援

ファンドの活用を通じた成長支援

当金庫では地域活性化や企業成長支援においてさまざまなファンドの活用を積極的に進めています。関連会社である中信ベンチャーキャピタル(株)からの出資や下記の出資しているファンドの紹介を通じて、取引先企業の成長を支援しています。

当金庫が出資する主なファンド

- 京都市スタートアップ支援投資事業有限責任組合
- 京都市スタートアップ支援2号投資事業有限責任組合
- 地域づくり京ファンド有限責任事業組合
- みやこ京大イノベーション投資事業有限責任組合
- みやこ京大イノベーション2号投資事業有限責任組合
- みやこ京大イノベーション3号投資事業有限責任組合
- MBC Shisaku 1号投資事業有限責任組合
- SBI AI&Blockchain投資事業有限責任組合
- SBI 4&5 投資事業有限責任組合2号

創業支援融資

当金庫プロパーでの取組みに併せて日本政策金融公庫や営業地区の各信用保証協会と連携し、創業支援を行っています。

2023年度実績		支援件数
創業支援件数		2,503件
	融資支援(プロパー)	1,640件
	融資支援(信用保証付保)	838件
	政府系金融機関・創業支援機関の紹介	25件

② 成長段階における支援

中小企業支援策を活用した支援

中小企業支援策を積極的に活用し、取引先企業と地域の活性化に向けた支援を行っています。

2023年度実績		支援件数
中小企業支援策の活用件数		2,891件
	各種補助金・助成金の支援先	206件
	認定支援機関の経営改善支援	234件
	各種ビジネスマッチングの活用※	2,451件

※ ビジネスマッチングには販路拡大に向けたフェア等への参加も含まれます。

■ 中信ビジネスフェア

2023年10月11日・12日の2日間、京都府総合見本市会館（京都パルスプラザ）において、異業種交流複合イベント「第35回大商談会 中信ビジネスフェア2023」を開催しました。

2023年度は「未来創造（クリエイト ザ フューチャー）～ビジネスが“つなぐ”ベストパートナー～」をテーマとして、今年度もリアル会場とオンライン会場のハイブリッドで開催しました。リアル展336社、オンライン展345社の企業・団体が出展、また、今回初めて近畿地区信用金庫協会と連携を図り、管内の取引先31社に出展いただきました。様々なノウハウを持った企業に出展・来場いただき、各種ビジネスマッチングの機会を提供するとともに、百貨店・スーパー・商社・海外企業等のバイヤーを招致し、販路開拓や売上拡大の支援に取り組みました。

他にも、今回初めての取組みである、パンマルシェやキッチンカーでは11社の企業にご協力いただきました。

中信ビジネスフェア全体ではオンライン含めて、約13,600名にご来場いただき、会場は盛況でした。



■ 合同企業説明会『京都ジョブ博2023』

2023年6月3日に京都市勤業館「みやこめっせ」にて、京都ジョブパークと連携し『京都ジョブ博2023』を開催。「働きやすい職場づくりに取り組む京都企業」をテーマに、100社もの企業が参加され、出展企業・求職者とも大変満足いただく結果となりました。



京都ジョブパーク連携
『京都ジョブ博2023』

参加企業数
100社

参加登録者数
199名

採用・内定数
7名

事業性評価

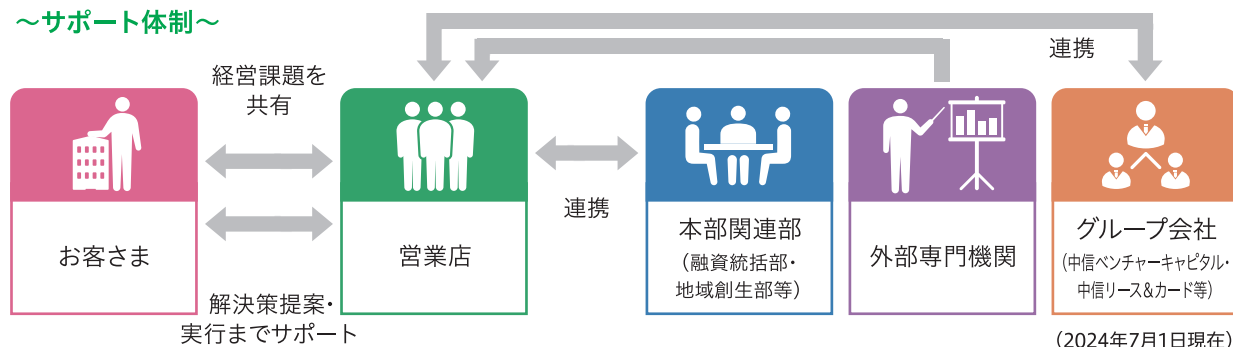
～お客さまと面談を行い、事業性評価シートを作成して事業内容を詳細に把握し、財務諸表に表れず見えにくい経営資源を見出す～

お客さまの知的資産（人的資源、組織力、経営理念等）、知的財産（ブランド、営業秘密、ノウハウ等）、知的財産権（特許権、実用新案権、著作権等）と収益の源泉（企業の強み）を見極めていきます。

また、お客さまと真摯に向き合う中で発見できる根本的な問題や課題を共有し、コンサルティング機能を発揮、問題・課題解決のサポートに努めています。

企業価値
向上に
貢献

～サポート体制～



「事業性評価に基づく融資」への取組み

担保や保証に過度に依存せず、「事業性評価」に基づいて、事業継続や成長に必要な資金の供給に努めています。

項目	2023年度
「中小企業向け融資」新規実行額	5,018億円
「事業性評価に基づく融資」新規実行額	590億円
「事業性評価に基づく融資」新規実行額の「中小企業向け融資」新規実行額に占める割合	11.7%

フードストアソリューションズフェア2023「京のごちそう拡販プロジェクト」

2023年9月6日・7日の2日間、インテックス大阪4号館・5号館において「フードストアソリューションズフェア2023」が開催されました。来場者数は前回開催を大きく上回り、9月6日：7,819名（前回6,799名）、9月7日：7,742名（前回7,216名）、合計：15,561名（前回14,015名）となりました。

当金庫専用ブースに出展された26社のうち18社は「集客スキルアップ講座」参加企業で、本フェアに向け、展示ブースの魅力づくりに取り組んできました。

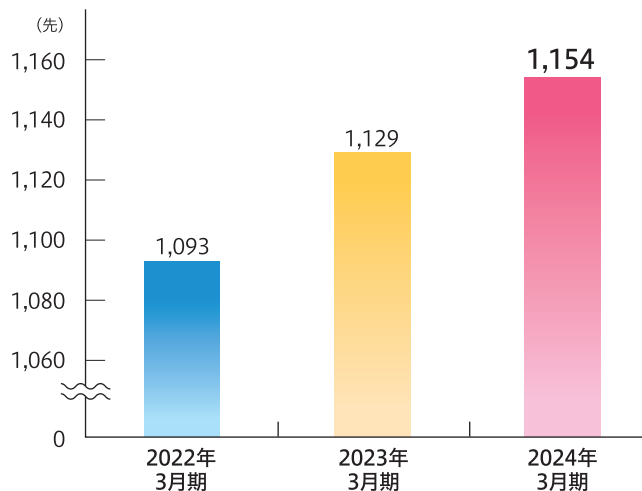
次回「フードストアソリューションズフェア2024」は2024年9月4日・5日の2日間、インテックス大阪4号館・5号館での開催が決定しております。



③ 経営改善の支援

経営改善支援先への積極的な取組み

「経営改善計画書」の策定支援状況(累計)



(注)当金庫が計画策定に関与した先の累計であり、現在正常化した先、完済した先も含みます。

当金庫は毎年度毎に経営改善を重点的に支援する先として「経営改善支援先」を選定しています。2023年度は183先を選定し経営改善計画書の策定支援や経営改善計画のモニタリング、改善に向けた助言・指導を行うなど経営改善をサポートしています。

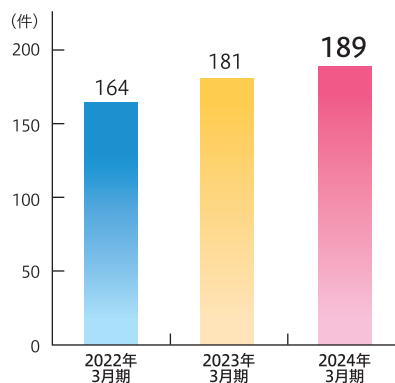
● 計画書書式は、以下の当金庫ホームページからダウンロードいただけます。
<https://www.chushin.co.jp/business/download/index.html>

④ 事業再生・業種転換等の支援

抜本的な経営改善を必要とする取引先企業の早期事業再生のため、「京都再生ネットワーク会議」の機能を十分活用し、中小企業活性化協議会などの外部機関や他の金融機関との連携、また経営コンサルタントや公認会計士、税理士などの外部専門家との連携に努め、各種企業再生スキーム等により事業再生支援に取り組んでおります。

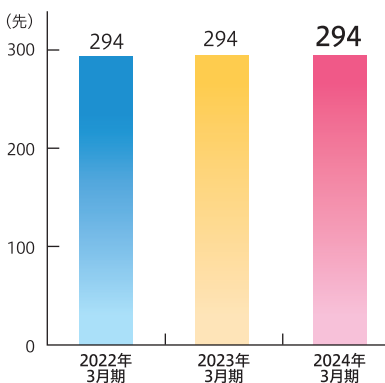
また原材料価格・燃料費の高騰、円安、人手不足などの影響により、経営改善計画の策定が難しい取引先企業に対して、様々なサポートを行っています。

「中小企業活性化協議会」の活用実績(累計)

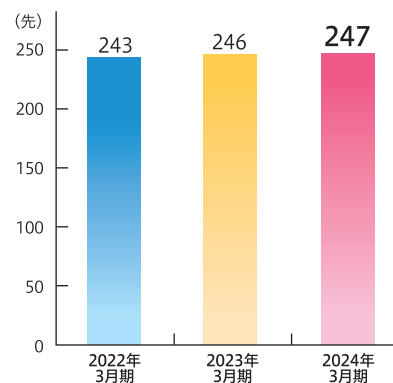


(注)「中小企業活性化協議会」及び「405事業」は今回より京都府外での活用実績も含めています。

「中小企業再生支援融資制度」取組実績(累計)



「405事業(旧経営改善支援センター)」の活用実績(累計)



事業再構築補助金の申請支援

経済産業省 中小企業庁では、ポストコロナ・ウィズコロナ時代の経済社会の変化に対応するために企業の思い切った事業再構築を支援する施策として『事業再構築補助金』を交付しています。当金庫は、認定経営革新等支援機関として、申請者の事業計画策定を伴走支援いたしました。

制度名	採択者数
事業再構築補助金(第1回～第11回)	551者

⑤ 事業承継・M&Aが必要な企業への支援

事業承継・M&A支援

① 新たなM&A支援の体制 ～当金庫が直接受託する取組みのスタート～

当金庫は新たな事業承継・M&A支援として2023年度より当金庫が直接顧客から受託し、仲介(またはF A)を行う取組みをスタートしました。これはM&A支援を内製化するもので、2023年度は2案件3件の成約を実現することができました。2024年度も引き続き支援を行ってまいります。

当金庫が直接M&Aの仲介を受託し、地元の訪問看護事業者の事業承継を実現し、地域活性化を実現したケース



(左)譲渡企業社長さま
(右)買収者さま

② 新たな企業の成長支援のお手伝い ～TOKYO PRO Market(TPM)上場支援のスタート～

当金庫は「TOKYO PRO Market上場支援」に関する業務提携を株式会社日本M&Aセンター(以下同社)と締結しました。これにより上場支援を含めた企業の成長戦略を支援できる体制を整備しております。2023年度は、地元企業に対する上場支援として、同社をJ-Adviserとした初案件が成約しました。当金庫は新たな成長支援としてTPM市場上場への支援を継続してまいります。

③ 公的支援機関と連携した事業承継支援の実現

当金庫はM&A仲介会社と連携した事業承継・M&A支援とともに、地域の公的支援機関と連携した事業承継支援を行っています。公的支援機関は主に事業承継・引継ぎ支援センターを中心に、第三者承継のみならず、親族内承継まで広範に相談持ち込みを行っています。その結果、京都府事業承継・引継ぎ支援センターでは京都府に本店を置く地域金融機関で最多の相談持ち込み件数となりました。また、滋賀県事業承継・引継ぎ支援センターでは、当金庫相談案件で初の第三者承継が成約となりました。

⑥ メイン取引先への支援

メイン先数

創業支援、成長支援、再生支援、事業承継・M&A、ビジネスマッチング等ライフステージに応じた経営支援により、お客さまとの取引拡充に努めています。

【企業単体ベース】

(※1)メイン取引先とは主に当金庫融資残高が1位の取引先です。

指標	2023年3月期	2024年3月期
全取引先数	27,228社	26,607社
うちメイン取引先数(※1)	18,790社	18,648社
全取引先数に占める割合	69.0%	70.0%

【企業グループベース】

(※2)経営指標改善先とは、前期対比で、売上・営業利益率・自己資本比率のうち、いずれかが改善した先です。

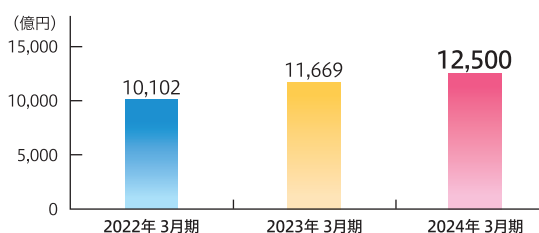
指標	2023年3月期	2024年3月期
メイン取引先数	16,010社	15,981社
うち経営指標改善先数(※2)	10,786社	11,074社
メイン取引先に対する融資額	14,008億円	14,834億円
うち経営指標改善先に対する融資額	11,669億円	12,500億円

「経営指標改善先」に対する融資残高推移

営業店と本部の連携により、ライフステージに応じた経営支援を実施した結果、経営指標改善先に対する融資額も着実に増加しています。

これらの支援を通じて、取引先企業の経営改善や成長力の強化を図り、地域へのコミットメント・地域企業とのリレーションをさらに深めています。

「経営指標改善先」に対する融資残高推移



地域の活性化に関する取組状況

中信学生デザインコンテスト

2023年10月11日・12日の中信ビジネスフェアにて、中信学生デザインコンテストを開催。今回は、より実践的な企業とのコラボレーションを目指して募集内容を大幅にリニューアルし、取引先企業11社の「パッケージデザイン」や「ロゴマーク」のニーズをテーマとして、13校の大学・大学院・専門学校から合わせて108作品を出品いただきました。

今回も一般社団法人 京都知恵産業創造の森との共催により開催し、表彰式は京都経済センター3階 オープン・イノベーション・カフェK O I Nにて開催しました。出展者・来場者の投票および有識者等による審査を経た受賞作品および募集企業による企業賞を発表するとともに、会場での作品展示を行いました。



中信杯全京都学童軟式野球選手権大会に協賛《1989年より》

京都府下の小学生が友情と夢を胸に、真夏のグラウンドで熱戦をくりひろげる「中信杯全京都学童軟式野球選手権大会」とともに2007年からは春季大会にも協賛。スポーツを通じて明日を担う小学生の育成に協力しています。



公益財団法人 中信美術奨励基金《1987年4月設立 2011年4月1日より公益法人移行》

京都の美術文化向上に寄与するため、当金庫預金量1兆円達成を記念して設立。京都を基盤に活躍する芸術家3名に、毎年「京都美術文化賞」（賞牌と賞金200万円）を贈呈し、受賞記念展を開催しています。第36回の受賞者は北山 善夫氏（絵画・彫刻）、岸 映子氏（陶芸）、西山 美なコ氏（現代美術）でした。

このほか、より多くの方々に美術文化に親しんでいただくため、2009年に開館した中信美術館の運営や、京都の美術文化についてさまざまな角度から考察する冊子『美術京都』を発行しています。



定期刊行物「美術京都」

第36回京都美術文化賞贈呈式



中信美術館



京都美術文化賞受賞記念展



中信美術館「羽田家のキモノ展」

公益財団法人 中信育英会《1981年2月設立 2011年4月1日より公益法人移行》

学力優秀、品行方正でありながら経済的事由で修学が困難な学生を奨学援護するため、当金庫創立40周年を記念して設立。社会への貢献ができる人材の育成に寄与しています。これまでに907名の卒業生が巣立ち、さまざまな方面で活躍しています。

また、奨学生間のコミュニケーションをはかる機関誌『悠々』を発行しています。

